

# 「障害のある人への就労支援プロジェクト ～地域と障害のある人とのつながりをつくる～」

教育・研究

地域交流

課外活動

代表者：人文学部社会科学科 3年 星川 知世

## 連携先

全国障害者問題研究会（全障研）・茨城支部、茨城県下の特別支援学校、障害者雇用支援法対象企業（N T K石岡ワークス株式会社、エフピコ愛パック株式会社、株式会社茨城ピジョンリサイクル）、茨城県下の社会福祉施設（社会福祉法人白銀会、知的障害者授産施設しろがね苑、障害者就業・生活支援センターかい、社会福祉法人あすなる園、社会福祉法人ユーアイ村ユーアイキッチン）、茨城県下の障害者団体（茨城県ダウン症協会）

## 顧問教員

土屋 和子（人文学部・講師）

## 参加者

星川 知世（人文学部社会科学科 3年）  
國谷 郁実（人文学部社会科学科 3年）  
藏本 大夢（人文学部社会科学科 3年）  
角田 恒平（人文学部社会科学科 3年）  
牛田 大暉（人文学部社会科学科 4年）  
赤津 圭子（人文学部社会科学科 4年）  
岩渕 宗成（人文学部社会科学科 4年）  
三村 貴大（人文学部社会科学科 4年）

## プロジェクトの申請内容

### ●目的

就職を希望する障害のある人と法定雇用率を満たしていない企業を結び付けること

### ●プロジェクト立ち上げの背景

昨年（平成24年）度、私たちは学生地域参画プロジェクトに採択されなかったが、自分たちでプロジェクトを進め、障害のある人の就労を考える学習交流会を開催した。学習交流会は障害のある人とその家族、地域連携先らの交流の場となった。また、私たちが作成した障害のある就労者へのインタビュー動画の公開も行った。この動画は、地域連携先の方が第21回発達保障研究集会で公開した結果、高い評価を得ることができた。しかしながら去年は資金不足のため、学習交流会が一度しか開催できなかった。また、取材交渉には経費がかかるため、取材先が制限されてしまった。今後はさらに新しい取材先を切り開き、プロジェクトを発展させたいと考えている。

### ●プロジェクトの内容

- ①県内で障害のある人を雇用している企業や一般就労している障害のある人へインタビューを行い、その様子を動画で撮影し、公開する。
- ②学習交流会及び動画鑑賞会、シンポジウムを2回開催し、地域住民や企業、障害のある人とその家族、地域連携先、学生の交流の場を設ける。うち1回は茨苑祭で開催し、200名程度の学生や地域住民の参加を募る。

### ●連携の方法

私たちは取材の対象として様々な障害のある人、特徴ある企業を取り上げたいと考えている

が、対象者の選定の際はプライバシー保護、人権擁護、企業秘密への配慮等、様々な対処が求められる。そのため、全障研茨城支部等、地域連携先の専門的助言を得ながら活動する。

茨苑祭では、福祉施設理事長及び職員、障害のある人を雇用している企業の社員、障害のある就労者を講師として招き、講演会及びシンポジウムを開催する。

### ●実施計画

6月～8月 機材購入、取材先との打ち合わせ  
(動画の撮影日時・場所・対象者の決定、インタビュー内容の確認)

8月～9月 取材実施(エフピコ愛パック株式会社、社会福祉法人希望会あすなろ園など)及び動画編集作業

10月～11月 茨苑祭でのシンポジウムと交流会の準備及び実施

11月～12月 学習交流会の準備及び実施

1月～2月 活動内容の分析、報告書の作成、来年度の計画

### ●期待される成果

- ①学習交流会及び動画鑑賞会の開催は、地域住民や学生、企業などに障害のある人の就労の実態を発信し、関心を持ってもらう機会となる。
- ②県内で障害者雇用に積極的な企業を紹介することで、今後の障害者雇用の促進につながる。
- ③障害のある人の就労を支える人々の連携を深め、新たなネットワークを形成する。

### プロジェクトの実施概要

7月～8月	機材購入、取材先との打ち合わせ
9月8日	エフピコ愛パック株式会社・茨城工場における フロアホッケー体験・取材の打ち合わせ
9月27日	エフピコ愛パック株式会社・茨城工場、株式会社茨城ピジョンリサイクルへの取材 社会福祉法人あすなろ園への訪問
10月18日	NTK石岡ワークス株式会社、知的障害者授産施設しろがね苑、障害者就業・生活支援センター「かい」への取材・シンポジウムの打ち合わせ(1回目)
11月8日	NTK石岡ワークス株式会社、知的障害者授産施設しろがね苑、障害者就業・生活支援センター「かい」への取材・シンポジウムの打ち合わせ(2回目)
11月9日	茨苑祭にて、シンポジウム「障害のある人と共に働く～現場から見えること～」を開催
11月11日	茨城県立内原特別支援学校の学校公開に参加 講演会の聴講「夢、実現へのメッセージ」 株式会社茨城ピジョンリサイクル 細川智絵子さん
11月17日	「第3回あつまる、まじわる、つながるー地域のサステナ活動をつなぐワークショップー」参加

11月17日	全国障害者問題研究会・茨城支部 船橋秀彦さんと学習交流会の打ち合わせ
11月24日	茨城県ダウン症協会主催「ダウン症フォーラム」への参加
11月28日	社会福祉法人ユーアイ村 ユーアイキッチンへの訪問・取材
12月7日	「障害のある人の就労を考える学習交流会～特例子会社の意義とは～」開催

私たちは、目的達成ため「取材及びインタビュー動画制作」、「学習交流会及び動画鑑賞会、シンポジウムの開催」、「地域連携」の3つの活動を実施した。

## ●取材及びインタビュー動画制作

### ①取材

企業や福祉施設に取材交渉を行い、計7つの取材先に訪問した。取材の際は、プライバシー保護、人権擁護、企業秘密へ配慮をした。

#### 【取材先一覧】

企業… 2社

- ・ NTK石岡ワークス株式会社
- ・ 株式会社茨城ピジョンリサイクル

福祉施設… 5事業所

- ・ エフピコ愛パック株式会社茨城工場
- ・ 社会福祉法人あすなろ園
- ・ 知的障害者授産施設 しろがね苑
- ・ 障害者就業・生活支援センター「かい」
- ・ 社会福祉法人ユーアイ村 ユーアイキッチン



取材時の様子

### ②動画制作

企業2社、福祉施設2事業所で、インタビューの様子や社内、施設の様子を約6時間撮影した。編集作業の後、2本の動画作品を作った。

#### 【制作した動画作品】

##### ・ 動画 1

「働くチカラ～NTK石岡ワークスの取り組み～」(約20分)

〈出演者〉

NTK石岡ワークス株式会社

事業管理責任者 下條さん

障害のある社員 宇田さん 成田さん

障害者就業・生活支援センター

就業支援ワーカー

梶山さん 飯田さん

・動画2

「共に働く～エフピコグループの取り組み～」

(約20分)

〈出演者〉

株式会社茨城ピジョンリサイクル

係長 細川さん

障害のある社員 檜物谷さん

エフピコ愛パック株式会社茨城工場

サービス管理責任者 山本さん



インタビュー動画撮影時の様子

●学習交流会及び動画鑑賞会、シンポジウムの開催

学習交流会及び動画鑑賞会、シンポジウムを2回開催した。開催の約3ヶ月前から企画、会場の手配、講師の依頼と打ち合わせ、動画の制作、広報活動をした。当日は学生が司会、運営、動画公開をした。

①平成25年11月9日(土)

シンポジウム「障害のある人と共に働く～現場から見えること～」

茨城大学水戸キャンパスにて開催

・内容

第1部

働く障害のある人の事例に学ぶ

(13:00～13:40)

・NTK石岡ワークス株式会社の動画公開

「働くチカラ～NTK石岡ワークス株式会社の取り組み～」

・「障害のある人が働くということ～当事者の立場から～」講演

NTK石岡ワークス株式会社

宇田勉氏 成田久夫氏

第2部

シンポジウム「障害のある人と共に働く～現場から見えること～」(13:45～14:50)

・「障害のある人の雇用の現場

～NTK石岡ワークス株式会社の取り組み～」

NTK石岡ワークス株式会社

事業管理責任者下條拓也氏

・『『かい』における、障害のある人への就労支援と生活支援」

障害者就業・生活支援センター「かい」

就業支援ワーカー

梶山剛史氏 飯田祐介氏

第3部

ミニ講演「障害のある人が豊かに生きる社会のために～わたしたちにできること～」

(15:00～15:30)

社会福祉法人白銀会

理事長長谷川浅美氏

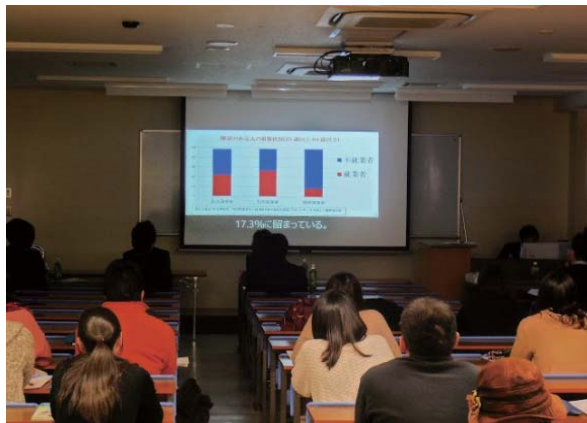
・参加者

計44名(障害のある人と家族、大学生、福祉施設職員、特別支援学校教員、企業関係者、

会場の近くにお住まいの方、大学関係者、高校生)

・講師、シンポジスト

講師、シンポジストは、取材協力先の企業の社員、福祉施設職員、社会福祉法人理事長に依頼した。障害のある社員の報告の場も設け、当事者の声を発信することができた。



シンポジウムの様子



講師とプロジェクトメンバーの集合写真

②平成25年12月7日（土）

「障害のある人の就労を考える学習交流会～特例子会社の意義とは～」

結城市民情報センターにて開催

・内容

第1部 障害のある人の事例に学ぶ

(13:00～14:00)

動画公開

「働くチカラ～NTK 石岡ワークス株式会社の取り組み～」

「共に働く～エフピコグループの取り組み～」

第2部 シンポジウム (14:10～15:40)

報告①

「NTK 石岡ワークス株式会社の取り組み」

NTK 石岡ワークス株式会社

事業管理責任者 下條拓也 氏

報告②

「株式会社茨城ピジョンリサイクルの取り組み」

株式会社茨城ピジョンリサイクル

係長 細川智絵子 氏

報告③、④

「障害者雇用を学んで～学生の視点から～」

茨城大学人文学部社会科学科

4年 牛田大暉 3年 星川知世

・総括 茨城大学人文学部 教員 土屋和子

・参加者

計22名（障害のある人と家族、大学生、福祉施設職員、特別支援学校教員、企業関係者、大学関係者、特別支援学校の学生）

・シンポジスト

シンポジストは、取材協力先の企業の社員に依頼した。また、プロジェクトメンバーの学生2名もシンポジストとして参加し、活動の報告と意見交換を行った。



講師とプロジェクトメンバーの集合写真

●地域連携

地域のワークショップやボランティアに参加し、幅広い地域住民と連携を深めた。

11月17日に参加した「第3回あつまる、まじわる、つながる一地域のサステナ活動をつなぐワークショップ」では、優秀発表団体として、2位に表彰された。



ワークショップ参加メンバーと表彰状

プロジェクトの成果報告

●今年度得られた成果

本プロジェクトの成果は、以下の3点である。

成果① 動画制作

私たちが取材で得た障害者雇用に関する有益な情報を、動画によって発信することで、障害者雇用の後押しをすることができた。広く情報を発信するため、本プロジェクトのホームページを作成し、制作した動画を掲載した。今後は、連携先のホームページにも動画を掲載予定である。



本プロジェクトのホームページ

<https://sites.google.com/site/ibadaisyakaihosyouthouzeimi/>

【動画を見た連携先のアンケート結果】

質問

本プロジェクトを通して、企業や福祉施設内に、障害者雇用に関してどのような変化が生まれましたか？

回答

- ・障害のある社員の人生設計について、会社として取り組むようになった。雇用安定のため、社員の障害基礎年金取得に向けて取り組み始めた。（企業）
- ・企業に対する障害者雇用の支援の課題がわか

った。(福祉施設)

## 成果② 情報発信

障害者雇用の実態を、インタビュー動画、シンポジウム及び学習交流会、ホームページで発信した。地域の方々に障害のある人の就労の実態を発信することで、関心を持ってもらう機会となった。

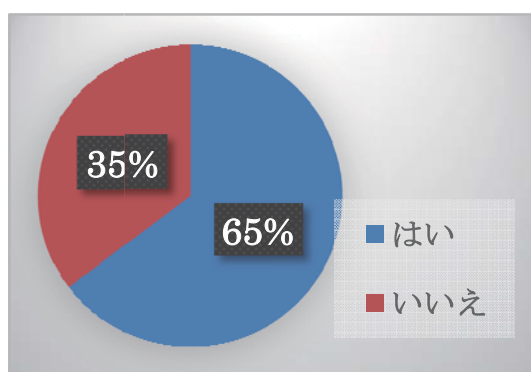
【シンポジウム、学習交流会の参加者、講師のアンケート結果】

### 質問 1

参加後、障害のある人の就労への考え方に変化はありましたか。

### 回答 1

はい→65% いいえ→35%



### 質問 2

質問 1 で「はい」と答えた方へ  
障害のある人の就労への考え方に、どのような変化がありましたか。

### 回答 2

○大学生、地域住民から  
・障害のある人の就労の厳しさを初めて知った。  
・「障害を持つ人との接し方は、もし自分がその障害を持っていたらと考えることが重要」と

いう意見は、これから自分も障害を持つ人と関わることもあるかもしれないので、忘れずに覚えていたい。

・自分が思っていた以上に企業と障害者の方との関係が密接であるということを感じた。

○企業、大学関係者から

・障害のある人の就労の可能性を知ることができた。  
・今後も障害のある人の雇用を継続したい。

○障害のある人の家族から

・企業が障害者雇用に前向きな姿勢ということがわかった。  
・講師をした障害のある人が将来のこともしっかり考えていて、見習いたいと思った。

### 質問 3

本プロジェクトは、障害のある人の就労にどのように役立つと思いますか。

### 回答 3

○講師から

・障害のある人の就労を地域の方に知ってもらえた。  
・これからを担う学生に障害者雇用について知ってもらえたことが大きい。  
・学生がこのようなテーマで活動することは、社会に大きな影響を与えるので、ぜひ続けてほしい。

○参加者から

・障害をもつ子の親にとって、励みになる。  
・障害者雇用の理解につながる。多くの人に発信してほしい。

### 成果③ 新たなネットワークの形成

私たちは、プロジェクト活動をする中で、企業、福祉施設、特別支援学校、家族、地域住民など、障害のある人の就労を支える人々の多さを知った。しかし、それぞれの交流が少ないことから、障害のある人の就労を支える人々の新たなネットワークをつくる必要性を感じた。そこで、学習交流会等の開催、地域のイベントへの参加を行い、障害のある人の就労を支える人々の連携を深め、新たなネットワークを形成することができた。

また、県内の福祉施設234事業所（就労継続支援事業所A型、B型、就労移行支援事業所）にはシンポジウムの案内等を送付し、本プロジェクトの活動を発信した。その結果、福祉施設から取材依頼やパンフレットが送付されるなどの反応があった。今後も、さらに連携を深めていきたい。



障害のある人を支える人々のネットワークのイメージ図

#### 【シンポジウム、学習交流会の参加者の感想】

- ・福祉施設理事長の話を聞く機会がなかったため大変勉強になった。（企業）
- ・福祉施設のイメージが変わった。（特別支援学校）

### ●今後の展望

私たちは、今年度の活動を通して、障害のある人の就労の実態を知るとともに、障害のある人の人権について考える機会となった。また、障害者雇用の情報発信に対する地域からの反応に、手ごたえを感じる事ができた。

今後は、障害のある人の就労上のニーズをさらに吸い上げ、プロジェクト活動を深めていきたい。また、今年度の活動を通してできたつながりをさらに強くし、活動を発信していきたい。そして、次年度は他学部の学生にもプロジェクトメンバーへの参加を呼びかけ、多角的な視点を取り入れたい。